

普及活動情勢報告（平成30年5月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

集落営農法人設立準備会が発足 ～第1回米奥地区法人設立準備会の開催～



準備会で法人設立までの一連の流れを説明

4月26日、米奥集会所で米奥地区基盤整備地区の担い手として集落営農組織の法人化に向けた準備会を開催し、営農組織の構成員等9名が参加しました。

普及所は、法人化に向け、法人設立までの一連の流れや法人組織を目指す目的、法人形態の特徴等について説明しました。

参加者からは「法人運営において、それぞれの人たちがどこまで協力できるかなどもう一度考えてもらう必要がある」などの声が聞かれました。

普及所は今後も、米奥地区の集落営農組織が法人化できるように法人運営や経営指導など支援していきます。

ブランド米栽培が始動 ～JA四万十エコ栽培米生産部会育苗現地検討会の開催～



苗の生育状況を確認

5月9日、水稻苗の健苗育苗に向け、JA四万十エコ栽培米生産部会の育苗ほ場巡回と現地検討会が開催され、12名が参加しました。

普及所は、本年度の播種、育苗状況の確認、健苗育苗に向けた管理を指導するとともに、気象予報を情報提供しました。

巡回では、平年と比べ、本年はやや苗の生育が早い傾向が見られ、生産者も「急いでは場の準備をしなければいけない」という意識も強まった様子でした。

普及所は米のブランド化に向け、より多くの部会員が高品質で良食味な生産ができるよう、今後も技術指導していきます。

新たな大正・十和地域の農業振興に向けて ～大正・十和地域営農連絡会の開催～



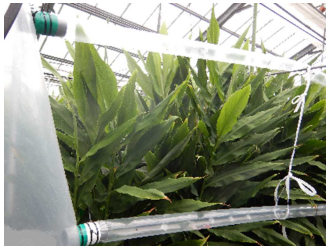
連絡会の様子

5月16日、四万十町大正振興局で大正・十和地域営農連絡会を開催し、JA高知はたや町役場等の職員15名が参加しました。

普及所は、普及指導計画書について説明し、本年度から「営農が継続できる仕組みづくり」に重点を置くことを提案しました。仕組みづくりに向けては農家意向の把握が必要であり、その内容や方法について意見交換を行いました。

今後は、関係実務者で意向調査内容を決定するとともに、その調査結果を基に地域で営農が継続できる仕組みを早期に実現できるよう取り組んでいきます。

ミョウガの環境制御技術を検討 ～ミョウガの実証ほ設置～



局所施用の様子

5月22日から、四万十町興津地区のミョウガハウスで、炭酸ガス及び細霧の局所施用の試験を開始しました。

ハウスミョウガでは、春先になるとハウス内温度を適正に保つため換気が必要となる一方で、ハウス内の炭酸ガス濃度や湿度が低下するため、ダクトを用いて炭酸ガスと細霧を茎葉の局所に効果的に施用し、生育を適正化することで、春先からの収量を増加させる技術確立に取り組んでいます。

普及所は、JA四万十ミョウガ部会や実証農家と連携し、ミョウガへの環境制御技術の普及に向け、増収技術の確立に取り組んでいきます。